

「新しい東北」官民連携推進協議会

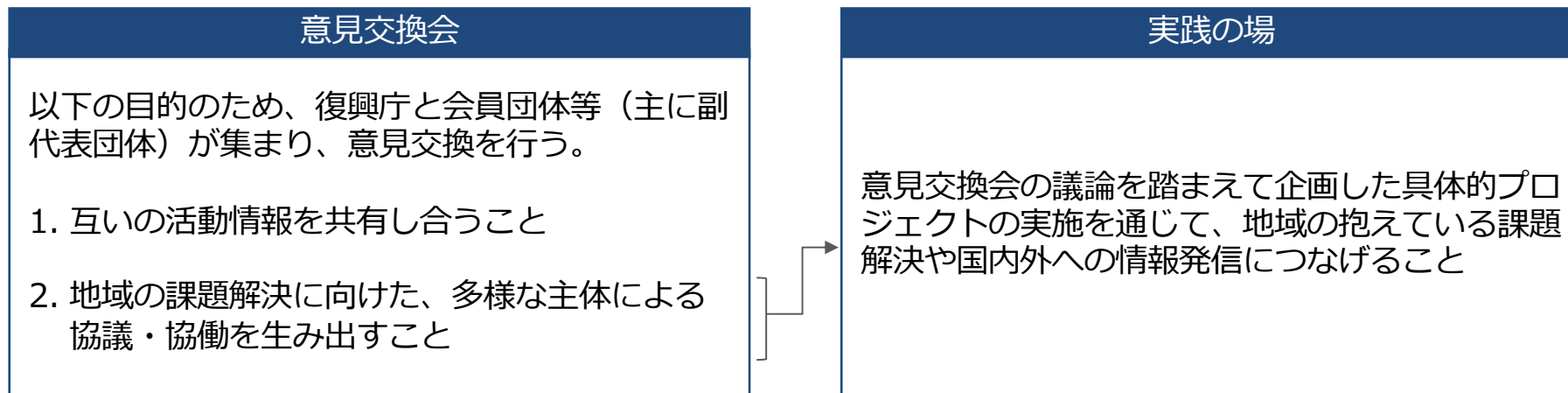
令和5年度
意見交換会(第1回)

福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2023年6月7日

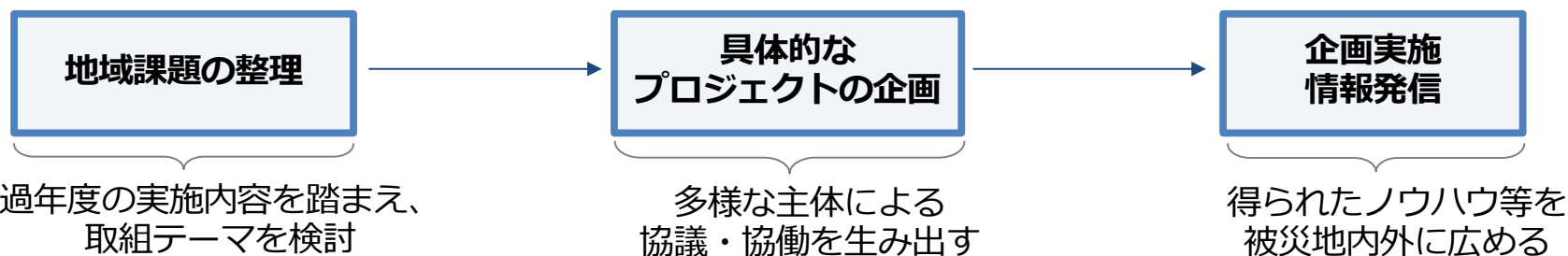
1. 意見交換会・実践の場の全体像

■ 意見交換会・実践の場の位置づけについて



■ 今年度の進め方について

- 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続
- 昨年度と同様に、具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、多様な主体による協議・協働を生み出す
- 単年度のみイベント実施に終わるのではなく、企画にかかわった方の継続的な関係性の構築など、地域や被災地外に何か（＝ノウハウ）を残すことができるような取組を目指す



● 2. 過年度実施状況：福島県

- 福島県の近年の取組では、**若者や学生に着目し、県内で活躍している方や県内企業等との交流**を内包した企画を実施。
- 令和4年度の意見交換会・実践の場では、**今年度「J-VILLAGE」を舞台に県内外の若者たちが「持続可能な地域づくり」を考える「話し合いの場」を設けるため、前準備の企画**を実施。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
テーマ	人材×日本酒（日本酒を核にしたネットワークづくりの検討）	食・観光・伝統工芸など、地場産業の担い手確保	福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）	東日本大震災から10年目にあたって	学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う	未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり
実践の場	<p>「福島県産品・伝統工芸品のPR（福島市）（福島県観光物産館）」</p> <p>「アイデアソンの開催」（東京都千代田区）</p> <p>福島：日本酒と酒器の組み合わせ商品の展示・販売 東京：Made in Fukushima商品をつくることのアアイデアソン</p>	<p>「ふくしまキャリア探求ゼミ～ふくしま新しい働き方・チャレンジの仕方について知ろう～」（福島市）</p> <p>福島県にU/Iターンをして新たな生活・仕事のスタイルを確立した先駆者の実体験を伝え、理解を深めてもらうためのワークショップ</p>	<p>「ふくしまキャリア探求ゼミ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」（福島市）</p> <p>福島県内在住の高校生・大学生に対し、県内には魅力的な仕事・働き方が多くあることを知ってもらうために、県内で活躍しているゲストと対話し、学生自身が将来を考えるワークショップ</p>	<p>「ふくしまプラクティス2020 —実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦—」（双葉郡楢葉町）</p> <p>挑戦的な活動をしている多様な担い手に自身の活動に関する内省、言語化をしてもらう機会を設け、各々の今後の活動への糧としてもらうことを目的としたイベント</p>	<p>『『大学生発 福島キャリア新発見』読む会』（オンライン）</p> <p>地域の中で魅力のある企業の若手社員を対象とした取材記事「大学生発 福島キャリア新発見」の創刊を目指して活動。次年度以降の福島県の企業の魅力を発信する活動の拡大と、取材を行った学生の皆様の成長を目的に、実践の場をオンラインで開催</p>	<p>「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」</p> <p>県内外の大学生、若手の社会人に参加いただき、福島県浜通りの視察、地域課題の解決に向けて地元で活躍している方々とのディスカッション、グループワークを通じて、次年度の「話し合いの場」の具体的な議論のテーマなどのプログラム案を検討。</p>

● 2. 過年度実施状況：令和4年度の取組詳細

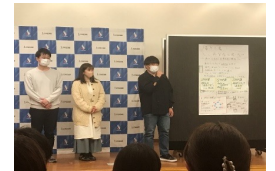
令和4年度の実践の場の企画内容

【背景・目的】

- 福島の直面する課題解決に向けて、R5年度以降Jヴィレッジを舞台に若者たちが持続可能な地域づくりを考える場を設ける予定
- R4年度は準備のため、大学生、若手社会人で次年度の「話し合いの場」のテーマなどのプログラム案を検討

「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」

- 日時：2023年2月16日（木）・17日（金）
- 場所：福島県双葉郡
- 内容：視察（伝承館・中間貯蔵施設・しろはとファーム）
ディスカッション（学識経験者）
グループ・ディスカッション（3グループに分かれて、テーマ、設定の背景、参加者、プログラム内容等を検討）、記者発表
- 参加：県内大学生5名、県外大学生7名、県内社会人2名
Jヴィレッジ、県・連携復興センター・福島大学・東邦銀行、復興庁・事務局



【各グループ企画案】

A

「ふるさと」がテーマ。トークフォークダンス（TFD）形式で、参加者が1対1で対話を繰り返し、各世代と語る。対話の前後で自分のふるさとについての考えを記録し、考え方の変化や他者との価値観の違いを振り返り・共有。幅広い世代の参加者が参加。

B

4泊5日程度、交流や現地視察・体験、ディスカッションを実施。最終日に、一人一人や行政、街として**「目指したい、目指すべき未来の姿」**を議論。浜通りの定住者、移住者の方々と浜通りに関心のある方々、30人程度。

C

県内で**アクティビティ（視察、職業体験）**や**民泊**などを体験後、**全国へモデル化**できるような**具体的な地方創生策**をグループで議論（zoom等）。当日はビジコン形式で、企業の方々を含めた浜通りの人々に対して、プレゼン。全国から集まった地方創生や地域活性化に興味がある学生、20人程度。

● 3. 本年度の実施方針

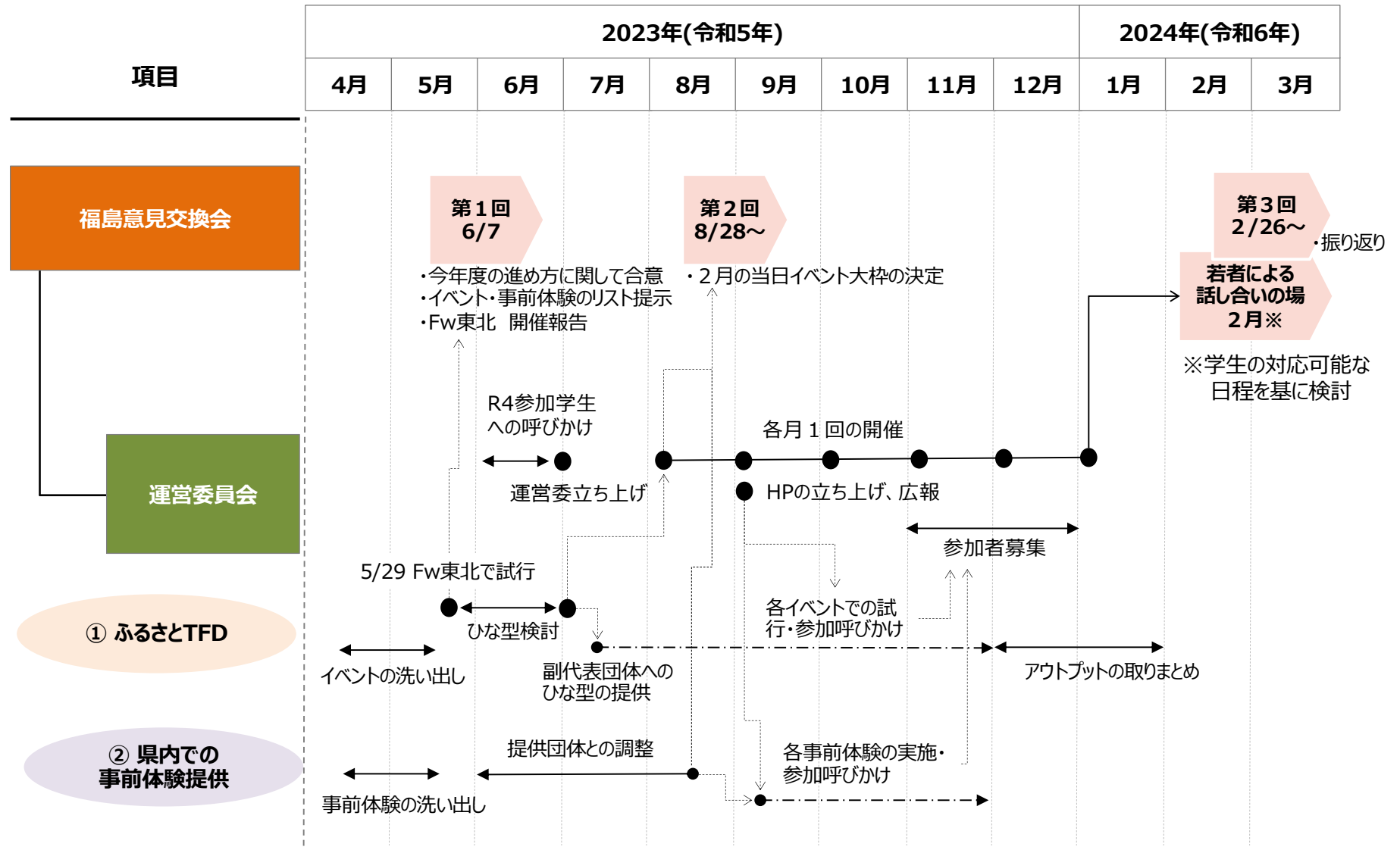
今年度の取組に関する議論内容（令和4年度第3回意見交換会）

- 今年度の取組は、3グループの提案の実現に向けて意見交換を実施することで合意
 - ✓ どれか1つを選ぶのではなく、それぞれの案の視点や想いを活かせる方法で実現を目指していく。
 - ✓ ふるさとTFDは、復興庁、Jヴィレッジや大学等のイベントなど様々な場で試行。
 - ✓ 昨年度にプログラムの提案を行った学生・社会人には、今年度も引き続き何らかの形で関与してもらいたい。



- ふるさとTFDは、復興庁事業（Fw:東北 Fan Meeting）で試行。
試行結果を踏まえたひな型を各団体に提供、各団体に試行実施。
- B・Cグループの提案は、「体験」と「話し合いの場」に分解。
「体験」は各団体等が提供し、その参加者を軸に「話し合いの場」への参加を呼びかけ。
- 昨年度参加者を巻き込んだ運営委員会を設置。具体的なプログラムを検討。

● 4. 意見交換会・実践の場のスケジュール案



● 5. 論点 ① 運営委員会について

- 運営委員会の構成・当面の議題等に追加・修正等はあるか。
- 現時点で大人視点で考えらえる実践の場の企画内容としてどのようなものがあるか。

(意見は事務局でとりまとめて、運営委員会の議論の参考資料として提示予定)

名称	福島・未来会議（仮称）運営委員会
事務局	Jヴィレッジ（4名程度のチーム）・官民連携推進協議会事務局
期間	2023年7月～2024年2月
構成	・ 各副代表団体より1名 ・ 昨年度の参加者（参加者の紹介による友人・知人を含めるか要検討） ・ 副代表団体より推薦があった地域の事業者・自治体関係者 等
開催	月一回の開催を目途に、毎回の議論内容を整理の上、必要に応じて開催（基本的にはオンライン開催）
当面の議題	7月（第1回）：企画内容の全体像の検討 8月（第2回）：企画内容の全体像の決定（9月から事前周知を開始予定）

○ 実践の場の企画内容（たたき台）

- ・ 福島（ひいては全国各地）の地域の将来像を描くワークショップ
- ・ 参加者に共通体験を提供する視察イベント
- ・ アイスブレイクのためのふるさとTFD
- ・ 地域をよりよく知るための浜通りにおける民泊 等

● 5. 論点 ② ふるさとTFDについて

○ 副代表団体が開催するイベントで、ふるさとTFDを実施（プログラムとして追加）できるか。

< 進め方 >

- ・ 5月29日 復興庁において、Fw:東北Fan Meeting（FTFM）でふるさとTFDを試行
- ・ 6月下旬 上記試行を踏まえ、復興庁から各団体へひな型提供
- ・ 7月～12月 各団体のイベントにおいて、ふるさとTFDを実施
- ・ 令和6年2月 「話し合いの場」では、上記ふるさとTFDの実施結果を共有。
また、「話し合いの場」のアイスブレイクとしてふるさとTFDを実施。

< 各団体の取組 >

【復興庁】

- ・ FTFMに参加した被災3県の移住コーディネーターにふるさとTFD実施の働きかけ
- ・ 宮城県・岩手県での意見交換会において、各副代表団体にふるさとTFDを紹介（岩手県：5/18、宮城県：5/25）
- ・ 一社 移住・交流推進機構（JOIN）の移住フェアでふるさとTFD実施に向けて調整中（来年1月見込み）

【福島大学】

- ・ 学生向けにふるさとTFDを開催

● (参考) ふるさとTFD試行結果 (概要・プログラム)

日時等	令和5年5月29日(月) 19:00 - 20:30 (18:50開場) オンライン (Zoomミーティングを使用)
テーマ	移住コーディネーターのためのふるさとワークショップ
参加者	① FTFM「東北暮らし発見塾」(令和3・4年度) 開催地の移住コーディネーター・自治体担当者 ② 上記①以外の岩手・宮城の移住コーディネーター・自治体担当者 ③ FTFM「移住支援者のための関係人口ワークショップ」(令和4年度) 参加者 (岩手・宮城・福島) ④ 「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」(令和4年度) 参加者
	計14名

タイムライン	内容	
19:00 (10分)	概要説明	ファシリテーターから開催主旨とワーク内容について説明。
19:10 (10分)	セッション①	「ふるさと」のイメージを拡げよう ・ プレスト形式で参加者それぞれが「ふるさと」から連想できる単語・フレーズをチャットに書き込み (別紙1)。 ・ 書き込まれた言葉をファシリテーターが適宜紹介。
19:20 (45分)	セッション②	「ふるさと」の意味を深めよう ・ セッション①で出た言葉を手掛かりに、TFDを通じて、「ふるさと」という言葉の意味を深める。 ・ 対話は1回9分間で4回実施。対話により意見が同質化しないよう、一巡はしない。 ・ Zoomのメインルームのほか、6つのブレイクルームを設けて、運営側であらかじめ決めた参加者のペアを各部屋に割り当てて、時間がきたら次のペアに変わるよう操作。
20:05 (10分)	セッション③	「ふるさと」で作文をしてみよう ・ セッション②での内容をもとに、参加者それぞれが考えた「ふるさと」の意味、移住や関わりたいまちにある「ふるさと」のイメージを運営側が示した定型文の穴埋めを行う (別紙2)。
20:15 (5分)	セッション④	発表とコメント ・ ファシリテーターから指名のあった者が作文を紹介し、ファシリテーターからコメント。

● (参考) ふるさとTFD試行結果 (別紙 1)

○ 参加者が挙げた「ふるさと」と聞いてそこから連想できる言葉 (計176項目) を便宜的に整理

人	もの	こと	風景	感情	気質	その他
おじいちゃんおばあちゃん	いなご	お祭り	緑	ありのまま	あたたかい	はだし
おじいちゃんのおい	うさぎ	お墓参り	あぜみち	おちつく	うわさ	ターニングポイント
ばあちゃん	お布団	げんこつで先生に怒られる	いつでも思い出せる景色	すき	おすそわけ	ヒマ
ガキ大将	かえる	まつり	コンビニの広い駐車場	なつかしさ	おすそ分け	夏
意外にすごい人いる	かかし	やたら走らされた	ダム	におい	おせっかい	夏休み
家族	からす	駅伝	ツリーハウス	ほっこり	だらけきた場所	故郷
会いたい人がいる	かんてん	歌	マックがない	安心	つながり	車が必要
学校の先生	せみ	花火	稲穂	安心できる	のんびり	出身
旧友	つけもの	学校	駅まで遠い	懐かしい	やさしい	出身地
笑顔	とんぼ	帰省	縁側	感情をありのまま出せる場所	ゆったり時間	生まれたところ
親戚	ジャージ	祭	海	帰ってきたと思える	アナログ	田舎
祖父母	チェーンソー	山菜取り	街並み	帰りたい	マニアックな感じ	背景
知り合い	家庭料理	自転車の手離し運転	学校遠い	帰りたいと思う	近所づきあい	秘密
仲間	軽トラ	蒔	季節を感じる	帰る場所	近所の繋がり	方言
友達	犬	小学校	空き家	気を張らない	近所の人に必ず挨拶	子供の時と大人になってから
幼馴染	実家の煮物	正月	空気がきれい	記憶	近所付き合い	だと感じ方が違う場所
	新幹線	青春	原風景	休まる場所	古き良き	
	草刈り機	雪かき	山川里	居場所	人とのつながり	
	虫	草刈り	自然	原点	人伝て = 最速	
	長靴	葬式	自然豊か	最高	昔ながら	
	日本昔話	虫取り	実家	思い出	暖かい	
	蛭	通学路がたのしい	商店街	思い出がある	地域に見守られている感じ	
	風鈴	登下校	雪	思い入れ	地域のあたたかさ	
	和食	怒られたり	川	思い入れがある	廃れた感じ	
	藁	同級会	川がきれい	実家の匂い		
		童謡	庭が広い	心のよりどころ		
		焚火	田んぼ	心癒される場所		
		放課後	田園	素		
		林間学校	田園風景	素でいられる		
			里海里山	美化される場所		
			里海里山	忘れられない場所		
			路面電車	癒される		
				落ち着く		
				落ち着く場所		
				力が抜ける場所		

● (参考) ふるさとTFD試行結果 (別紙2)

- 参加者による「私にとってふるさととは○○です。私が暮らす町でふるさとを感じられるポイントは○○です」の穴埋め一覧。

	私にとってふるさととは○○です。	私が暮らす町でふるさとを感じられるポイントは○○です。
A	原体験が生まれた場所	海と山を一緒に眺められる堤防の先端
A	誰かに見守られているを感じる場所	どこにいても知り合いに出会って、知らなくてもすぐ仲良くお酒を酌み交わせるところ
B	良い記憶と悪い記憶	NANAMARUNI COFFEE
C	ありのままの自分で居られる「人」と「場所」があるところ	個性的な人たちとゆるく繋がりが合うことができること
D	「思い」が詰まった場所	地域の人との思い出があり、自分の中で簡単に切り離せない思い入れがあるところ
E	帰ってきたと思えるところ	頼れる人、助けてくれる人がいるから
F	自分をリカバリーしてくれる場所	広い海と空
G	帰りたと思える思い入れのある場所	暖かく受け入れてくれるクセになる地元の人たち
H	気持ちが安らぐ場所	ご近所さんからおすそ分けとたわいもないお話でほっこりできるところ
I	人と人のかかわり	人の顔が見える距離感
I	五感を育ててくれた場所	喜びを共感できる場所
J	息抜きできる場所	あたたかさ、居場所がある、つながり
K	人とのつながり	日常生活（特に畑仕事、草刈り）で地域の方々が一緒に活動すること
L	今は離れていても気になる場所	慣れてくると人懐っこくなる地元の方々 本当は来た人自身に見つけていただきたい
L	そこはかたないなつかしさ	いつの時代からあるのかかわからないような古い家並みと田園風景
M	記憶に残る情景です	地域の人たちが集まる場所
N	誰かがいると感じられる場所	登下校を見守ってくれている地域の人々が挨拶してくれる時

● 5. 論点 ③ 体験の提供・参加者募集について

- 副代表団体が開催するイベントで、「体験」の提供と、「話し合いの場」の参加者募集ができるか。
- 連携できる他の団体・イベント等はあるか。

< 進め方 >

- ・ 9月～10月 各団体（又は他団体）が提供する「体験」プログラム参加者に「話し合いの場」の事前周知
※ 10月末までに募集のフライヤー等作成
- ・ 11月・12月 「話し合いの場」への参加者募集

● (参考) 実践の場実施に向けた全体フロー

<内容詳細>

情報発信

ホームページ

プレスリリース

- ・「話し合いの場」の開催情報について、9月を目途に公式ホームページを立ち上げて情報発信
- ・ホームページはJヴィレッジのホームページ内に設置する。協議会HPや各副代表団体からのリンク付け等の対応も検討
- ・「HPの立ち上げ・開催決定（9月頃）」「参加者募集（11月頃）」「取材依頼（1月）」にはプレスリリースを発信

実施主体

Jヴィレッジ

事務局

副代表団体

運営委員会

令和4年度参加者

運営参加希望者

- ・令和5年7月を目途に運営委員会を立ち上げ
- ・運営委員会の主体はJヴィレッジとし、事務局がバックアップを実施
- ・副代表団体も運営委員会に加わり、実践の場の開催に向けた企画立案等のサポートを行う
- ・運営委員会は月一回の開催を目途に、毎回の議論内容を整理の上、必要に応じて開催するものとする

実施内容

「目指すべき姿」

「地域づくりのモデル」

「ふるさとを考える」

30名程度による
4泊5日の話し合いの場

ビジコン形式

トークフォークダンス

事前アンケート

事前学習

(試行)
副代表団体

(参加者①)
浜通り移住定住者

現地アクティビティ

(試行)
復興庁

(参加者②)
浜通りに興味がある人

zoomMTG

(参加者①)
外部の若者

(参加者②)
内部の事業者

- ・「話し合いの場」のプログラム内容は令和4年度提案をベースに運営委員会で協議
- ・「話し合いの場」の当日のプログラムに含まれる「事前学習」、「現地アクティビティ」などの取組については早期に調整

● (参考) TOHOKU Waltz Invitation Card & Set Menu

【目的】

- 大阪・関西万博の来場者等を被災地に誘引するエクスカージョンプログラムを岩手・宮城の官民連携推進協議会で検討しているが、エクスカージョンプログラムはいわばコース料理であり、これに加えて、自前の移動手段を確保できる者をターゲットとして、自分で自由に組み合わせて、より広域的な周遊にもつなげられるアラカルト及びそれらを組み合わせたセットメニューも用意する。
- 施設等の客観的な紹介ではなく、震災からの復興の物語や被災地の想いを主観的に伝えて、人のつながりを生み出すことができるメニューとなるよう、被災地からの招待状「TOHOKU Waltz Invitation Card」（仮称）を作成する。
- 招待状を作成することで、被災地に暮らす人々が自分の地域の物語や魅力を見直すとともに、関係人口を創出し、ともに東北のこれからの物語をつむぐことを目的とする。

【招待状の概要】

- 被災地の若者たちから地域内外の誰かに向けた、東北で会わせたい人、見せたい場所、食べさせたいもの等（紹介物）への招待状。紹介物の写真と文章で構成し、紹介者・紹介物の震災にまつわる物語やなぜ招待するのかを伝える。
- 未成年の招待者の匿名性は担保し、成人については氏名・顔写真等の掲載は任意。
- 成人の招待者も含めて、招待客からのメッセージなどがあれば官民連携推進協議会が仲介する。SNS等による直接双方向のやり取りはできないようにして、招待状を持って東北に足を運び、直接対面することを企図。

【取組案】

- 被災地の大学生・高校生等に招待状を書いてもらい、複数の招待状などを組み合わせたセットメニュー（半日から1日程度の周遊コース）を作成するワークショップなどの実施（協力校の確保）。
- 小中学生に招待状を書いてもらうワークショップなどの実施（公共図書館における催し等を活用）。
- 実践の場などで作成した招待状やセットメニューのプレゼンを実施。

Waltz : 4分の3拍子の旋回舞曲。語源はドイツ語で「回転する」waltzen という意味。また、ドイツで職人がマイスターを目指して、各地の現場を訪れ技術等を身に付けるための1～3年間の放浪修行の旅のことをワルツという。放浪の旅・ワルツの期間中は、出身地の半径50km以内には立ち入れない、黒い帽子・ジャケットを着用する等のルールがある。

● (参考) TOHOKU Waltz Invitation Card & Set Menu

【招待状イメージ 表面】

紹介物タイトル (日・英)

紹介物の写真

テキスト (日本語)
※ 10.5ポイント Meiryu UI

【招待状イメージ 裏面】

テキスト (英語)
※ 10.5ポイント Meiryu UI

招待者の情報 (日・英)
※ 10.5ポイント Meiryu UI
成人招待者は顔写真等も掲載可

QR
コード
より詳細な物語・
GIS等へのリンク